

語り継ぎたい和歌山の話し言葉

かつらぎ町立
妙寺中学校 文芸部

方言には、その土地の文化や風土に根づいた言葉です。そんな私たちのふるさとに受け継がれてきた方言を守っていききたいと思い、現在使われている方言の種類やその知名度について調べようと思いました。

表の説明

下の表の国~国の番号は、左の表と合わせて見ます。
地域年代別にどのような方言も使っている30代、どのような方言も知らないかが分かります。

和歌山弁の特徴について!

言語尾の表現がユニーク

～け	～かい	～ですか	和歌山弁で女子さんけ
～かい	～ないか	～でしよう	和歌山弁でいいかい
～ら	～しているよ		和歌山弁でいいよ
～ら	～しよう		和歌山弁でいいよ
～しと	～したよ		和歌山弁でいいよ
～のさ	～さね		和歌山弁でいいよ
～しか	～の方が		和歌山弁でいいよ
～し	～だよ		和歌山弁でいいよ
～る	～だろ		和歌山弁でいいよ

「～やん」の使い方

和歌山では「～やん」を否定の意味で使います。大阪弁などでは「～やね」「～でしよう」という意味で使うのと同じ関西弁和歌山と大阪では大きく意味が違ってくるので、

●一般的に尊敬語が無い。

紀州に於いて徳川時代が250年以上も続き、敬語を使う必要が無かった。

また古来より上下関係が少なく平等思想が確立されていたと思われる。

まとめ

和歌山弁の特徴を調べた結果、一般的に尊敬語が無いという事におどろいた。他県に行くときに不便になってしまうので学校でも習うようになって、いる。今の私たちが当たり前のように敬語を使っているからだと思う。

アンケートを取るに当たり、年代によって使う方言の種類に差があるが、地域によっての差はないと予想していた。しかし、アンケート結果を整理してみると、10代~20代と、60代~80代の人には、紀北地区よりかつらぎ町の方が方言をよく使っており、30代~50代は、紀北地区とかつらぎ町に差はないと考えられる。このことから、10代~20代と60代~80代の人には、地域の人と話すことが多いため方言を使う機会が多くなっていると考えられる。現在、方言を使う人は、大人で少なくなっていることがわかった。ただ方言を使っている人が、今よりも方言を使っている世代が30代~50代の人と同じ状況になるならば、方言を使う人はいなくなると思われそう。方言を教えないと思われてきたが、このままでは方言が消えてしまいかねないということがある。しかし、私たちが地域に根づいた方言を残していきたい。そのため私たちが大人になって方言を使い続け、小さな子供たちに教えることが必要である。

和歌山弁は大きく分けて三種類

- 紀北方言
 - ・ 和歌山 - 和歌山市、海南市、海南郡
 - ・ 那賀方言 - 那賀郡(現紀伊川中、笠置中)は奥地方
 - ・ 伊都方言 - 伊都郡(現本宮を含む)花園村、かつらぎ町は奥地方

- 紀中方言
 - ・ 紀中平地帯 - 有田町、湯浅町、吉備町(現御坊町)など
 - ・ 紀中奥地帯 - 清木町、金屋町、美山村、柳井町、青島村など

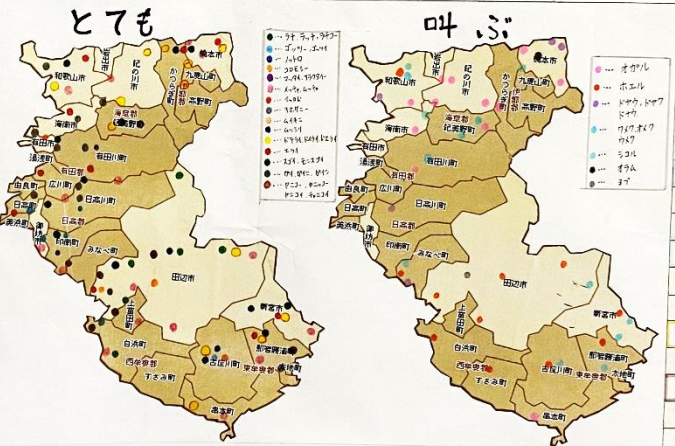
- 紀南方言
 - ・ 西牟婁
 - ・ 西牟婁平地帯 - 田辺市、白旗町、上富田町、さかひ町、栗本町、など
 - ・ 西牟婁奥地帯 - 中土庄町、大岩村、日置川町、漆地区、大野町、など
 - ・ 東牟婁
 - ・ 東牟婁平地帯 - 新宮市、那智勝浦、太田、など
 - ・ 東牟婁奥地帯 - 本宮町、北山村、熊野川町、など

下のアンケートを57人に行い、「とても」と「叫ぶ」を取り上げて、地域・年代別に分け表にまとめました。

地域	とても	叫ぶ
和歌山	8	15
那賀	9	16
伊都	10	17
紀中	11	18
紀南	12	19
その他	13	20
合計	14	21

↑ 実際のアンケート

	とても	とても	叫ぶ
1 ラチ ラチ ラチ	8	15	オガル
2 ゴッソー ゴッソー	9	16	ホエル
3 ノットロ	10	17	ドヤウ、ドヤク ドヤウ
4 コロモシー	11	18	ワメク、オメク ウメク
5 マツタイ	12	19	シゴル
6 ムツヤ ムツヤ	13	20	オラム
7 アラタイ	14	21	ヨブ



●「ぎじぎぞ」の発音が「だざづで」と混同する。(抜粋)

- ・ あませけ(甘酒) → あませ
- ・ おてん(御田) → おせん
- ・ うどん(雑餡) → うぞん
- ・ からだ(身体) → かだら
- ・ けいさい(経済) → けいたい
- ・ せしき(座敷) → だしき
- ・ ございます(御座います) → ございます
- ・ だいじょうぶ(大丈夫) → さいじょうぶ
- ・ わざわざ(悪々) → わだわだ
- ・ のど(喉) → のぞ
- ・ じぞうさん(地蔵さん) → じぞうさん
- ・ てんしん(電車) → ぜんしん
- ・ せろせろせぶん(007) → ぞろぞろせぶん
- ・ だいたい(燈) → さいさい

● 共通語の普及により、異なる地域の人々が円滑に交流できるようになった。方言は、地域の人々の交流の中で自然と身につく言葉であり、自分の感情や感覚を表現に即した言葉である。方言を大切にすることは、その背景にある文化や伝統を尊重することにもつながる。そんな方言を残したいと考えた私たちは、和歌山弁の特徴と話し言葉の現状について調べた。